

ハーブソン Hokkaido 2017  
結果・速報版  
(修正版)



北海道爬虫両棲類研究会

## はじめに

2017年4月29日～8月20日まで、北海道爬虫両棲類研究会主催の「ハーブソン Hokkaido 2017」を開催しました。本年も大きな事故の報告もなく無事に終了できました。参加して下さった方々、協力して下さった方々に御礼申し上げます。また、様々な地域での活動報告を頂いたことに大変感謝しております。

今回発行する速報は、簡易的な結果報告と競技部分の内容となっております。本イベントの詳細な報告、及び結果等については、2015年～2017年のデータの蓄積の上取りまとめ、報告書を作製します。

2017年度のハーブソン、及び報告の作製は北海道新聞野生生物基金の助成を受けて作成されております。

北海道爬虫両棲類研究会  
会長 徳田龍弘

## 調査の結果について

**参加チーム数:** 22 チーム (昨年比+10)

ばいかだ、チームやまはな、自然ウォッチングセンター、東海大学生物学科竹中研、とかちへいや生物部、わんぱく遊び隊！、栗山町いきもの大好き、アマアマアマアママガエル、タイキフローラカエル探偵団、ざりがに探偵団ビッキーズ、あげは、ゴジラ、ぼんじろう、浦幌町立博物館、SIRO、高田令子、チーム西堀、好奇心 Oh! Say!、じむぐりーず、瑠璃の葉、HHS 観察会、なかなかいない3人

**参加者数:** のべ 112 名 (昨年比+32)

**調査されたエリア:** 140 エリア (昨年比+75)

**期間内調査で確認された種:** 20 種 (昨年比+2)

ヒガシニホントカゲ・ニホンカナヘビ・コモチカナヘビ・ジムグリ・アオダイショウ・シマヘビ  
シロマダラ・ニホンマムシ・クサガメ・ミシシippアカミミガメ・キタサンショウウオ・エゾサンショウウオ  
ニホンアマガエル・エゾアカガエル・アズマヒキガエル・ウシガエル・ツチガエル  
トウキョウダルマガエル・トノサマガエル・アカハライモリ

**頂いた生息データ数:**

正式記録(確認データあり): 343(+181), 参考記録(確認データなし): 15(-3)

その他の期間記録(確認データあり): 35(+28), 特殊記録(参加者以外からの情報提供): 9

**各詳細データについて**

速報データは以上です。細かな種ごとの分布や検討については、今年度の発行を予定している「ハーブソン Hokkaido2015-2017 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告別冊)にて行う予定です。

## 受賞等について

「ハーpson Hokkaido 2017」では、一生懸命調査を下された方々に4賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状及び粗品を年度末に贈呈する予定です。

### ★最優秀賞

ハーpson期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者: **アマアマアマアママガエル**(14種)

2位: 東海大学生物学科竹中研(11種) 3位: ざりがに探偵団ビッキーズ(9種)

### ★ばいからだ賞(推奨地域最多エリア調査賞)

ハーpson期間中に最も多くの指定地域内のエリアを、調査して下さったチームです。今年は日高振興局エリアでした。

受賞者: **好奇心 Oh! Say!**(5エリア) 次点 : ざりがに探偵団ビッキーズ(1エリア)

### ★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与。同種確認チームが2チームおりましたので、抽選の結果、以下のチームが受賞しました。

受賞者: **ぬまんちゅ**(2種) 次点 : チーム西堀(2種)

### ★中島宏章賞(写真賞)

調査写真から、特に写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏

(<http://hirofoto.com/>)に選定していただきました。

これらの写真(応募のあった写真)については、2017年1~2月に予定されている、北海道爬虫両棲類研究会大会にて飾る予定です(2L版)

受賞者: **好奇心 Oh! Say!**(写真題:アルカイツク・スマイル)

次点 : アマアマアマアママガエル(写真題:「モ」の中の蛙)



アルカイツクスマイル



「モ」の中の蛙

## おわりに

この発行物は速報ですので、簡易な発表になっております。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハープソンの今後についてなどを細かく記録したものは、本年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハープソン Hokkaido2015-2017 結果報告書」にて報告する予定です。

ハープソン Hokkaido 2017 を実施するにあたり、参加者獲得のために、本年度は各会場の方々のご協力を得て、釧路、帯広、サロベツ、えりもでハープソンの紹介などを講演等の内容の一部に含めさせていただいてお話しをさせていただきました。各地域で参加者が出てくださったのは大変ありがたく思います。本年度は北海道新聞野生生物基金の助成を受け、活動をさせて頂き、この後に控える報告書の作製もさせていただきます。助成を受けた本年度に限らず、今後も予算等工面して毎年開催できるよう考えていきたいと思っております。

今回は前回より参加チーム、報告データ数をはるかに多くなりました。発行予定の結果報告書の内容にかなり反映できると思っております。また、ニホンイモリ(外来)の観察例や一部の外来のカエルでは新しい地域での発見があるという、少し暗い面もありましたが、一方でシロマダラの新規生息地の確認といったデータも頂けました。

今回で4回目となったハープソンですが、一般への認知につきましてはまだまだです。しかし、参加してくださった方々や会員の方々を通して、確実に参加者は増えていっております。それに伴い、データ数も上がってきているので、今後、もっとデータを集めやすい(参加者が投稿しやすい)環境を整えていければと考えています。例えば、スマートフォンからのアプリによる投稿も、写真を撮影した位置の GPS 情報が入っているデータから地名等の省略ができるものもありますので、そのあたりの活用なども考えていきたいです。

春から夏にかけて長期で行っている性格上、春の両生類の産卵時に一番多くの情報が集まり、その後少し情報量が下がる傾向にあります。爬虫類には出会いにくいので、当然といえば当然ではあるのですが、研究会でお知らせや、探すポイントなどを、中間期などに発行できるといいのかもしれない。

ハープソンはデータを蓄積することに意味があります。来年度はデータを蓄積していく予定で進め、速報の発行や、賞授も行う「ハープソン Hokkaido 2018」を実施する予定です。結果の取りまとめについては2020年度に2018-2020年度のものをまとめた報告書を作成したいと考えております。開催の時期が近づきましたら、お知らせいたしますのでぜひご参加下さい。

今後ともハープソン Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしく願いいたします。

最後に、今回の速報発表にあたり、初版には集計の誤りがあり、誠に申し訳ありませんでした。受賞に関する順位が変動してしまう結果となり、特に直接順位が変動してしまった皆様にお詫び申し上げます。集計のデータをもう一度見直し、再集計してこの修正版の速報を作成させていただきました。

今後、このようなミスがないよう気をつけてまいりますので、今後とも皆様、よろしく願いいたします。

執筆: 徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・会長)  
北海道爬虫両生類研究会

〒005-0021

北海道札幌市南区真駒内本町7-4-27

北海道爬虫両棲類研究会事務局内

会長 徳田龍弘